

会議名	令和7年度小高小学校・小高中学校のあり方に係る保護者懇談会
日時	2025年9月27日（土） 10:00～12:20
場所	小高生涯学習センター ホール
参加者（庁内）	教育長、教育委員会事務局長ほか
参加者（庁外）	小高区保護者8世帯 14人 ※オンライン含む

【説明及び意見交換】

○今後の小高小学校・小高中学校のあり方について

今後の小高小学校・小高中学校のあり方について、現状の取り組みや市の方針等の説明の後、
 いいたて希望の里学園の前校長より、学園における取り組み等の講話をいただき、これ
 らの内容を踏まえ意見交換。

【質疑応答等について】

質疑応答の内容ごとにまとめて記載したもの。

（１）義務教育学校になった際の課題の対応について

①質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	義務教育学校などに変わっていくときに、小・中の指導や文化の違いによる戸惑いがあった際の課題があれば伺いたい。また、そうした問題が起きたときに、先生や教育現場、保護者として何ができるのか伺いたい。	管理職も含めて学校経営の問題にもなってくると思う。4月当初に新しく来た先生方への引き継ぎなどを丁寧にやる必要があり、管理職がきちんと説明を行い、何度も説明していくことが大切だと考える。また、地域の方がしっかり見守り、何かあったときには意見などをいただくのがよいのではないかと考える。

（２）今後の協議の進め方について

①質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	今後、協議会などを作って話が進んでいくと思うが、学校だけでなんとかしようとするのではなく、地域と連携していくというところも考えてもらいたい。	今の協議会には保護者の方、そして地区の代表の方ということで、皆さんに入ってもらい、これからの学校をどうしていきたいかという協議・検討を行いたいと思っている。小高ならではの特色等も生かしていきたいと思っているので、そういった視点を大切にしながら進めていきたい。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
2	地域から教育委員会にお願いしてやってもらうというのではなく、地域の声を教育委員会が汲み取って進めていくほうが地域の人にとっても満足度が高い取り組みになると思うので、一緒にやっていくという形で進めていただけるとよいと思う。	小高区の方、保護者の方、教育委員会と一緒に、小高の子どもたちをどのように育てていきたいというところをしっかりと共有し進めていくことが一番大切であると思っており、そのような形で進めていきたい。

(3) 義務教育学校を目指すことになった考えについて

① 質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	今日のお話を伺い、子どもたちとしたら今とあまり変わらないのかなと思う。	確かに、現在も小高小学校・小高中学校は小中連携しているので、変わらない部分も出てくるのかもしれないが、同じ施設の中で、9年間通した学びの充実をさせていくということで、より発展させられる部分があると考えている。 今後、義務教育学校を目指す正式に決まった際に、具体的な内容を検討していくことになるので、こういう子どもを育てたいというご意見をいただき、考えていきたい。
2	今回の義務教育学校を設置していくことに関しての目的が説明されていなく、何のためにやるのか、どういういきさつでやることになったのか。	資料1に記載があるが、市教育委員会としては小高小学校・小高中学校の9年間を通じた学びをさらに充実させていきたいという思いがある。現在も、学校の魅力や特色について取り組んでいただいているが、それらをさらに高めていき、未来を生き抜く子どもたちを育てていきたいと思っている。 そのために、小高小学校・小高中学校の施設の一体化、そして義務教育学校の設置ということで、これからの学校の姿というものを目指していきたいというのが目的である。
3	地域協議会からの声が今回の提案の中心にあるのか、教育委員会としての思いが先にあるのかで全然違うと思っており、子どもたちにとってどうなのかというところがないのであれば、今のところやる意味はあまりないと思う。	教育委員会として、こういった学校を作りたいという強い思いがあり提案をさせていただいている。その中には地域協議会からのご意見もあるが、根底にあるのは教育委員会としての思いである。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
4	個人の認識としては、少子化で教職員の方々、生徒数ともにこれから日本は減ることから、先生の確保も難しくなる。今も全国的に不足していて、これからもっと不足するので、その対応で、教育の質を落とさないために義務教育学校化が必要であり、特に南相馬市は全体的に原発事故の件もあり人数が少ないので、いち早くスタートしたほうがいいことからやるのかなという認識である。	義務教育学校ができてきた背景としては、確かに子どもたちの数が減ってきているというような少子化の部分があると思う。ただ、小高については現在小中一貫教育ということで取り組んでおり、それをさらに9年間を見通して系統立てて、より充実をさせたいという思いが入り口になっており、子どもが少ないから一緒にするというわけではない。

(4) 子育て世代の意見聴取について

①質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	どれだけ子育てしている方たちの意見を聞き、それを踏まえた上でやることになっているのか。聞かずに地域協議会から意見書が出たのでやるということだけなのか、そもそも方針として落とし込むプロセスで、どれだけお子さんを育てている方たちの意見に触れたのか。	今回、市の方向性として提案をしたので、今後実施する意識調査の中でしっかりと意見を伺っていきたいと思っている。その中で保護者の方も義務教育学校を目指していきたいと同じ方向性を向いていただいた際には、具体的な検討を始めたいと考えている。もし、義務教育学校について懸念等があるということであれば、理解をいただくように丁寧に説明をしていきたいと考えている。

(5) 義務教育学校の特色について

①質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	義務教育学校と小中一貫校の比較のところで、最も大きな違いは、組織、運営面にあるということだが、本来であれば、最も大きな違いは、質の高い教育環境と、それを確保し、教育効果の向上というところがまず必要ではないかと思う。	義務教育学校と小中一貫校の一般的に言われているものとして、最も大きな違いは組織・運営にあるということで説明をしている。確かに教育の質の高さや、特色についてさらにお知らせすることで、義務教育学校の理解が進む場面も出てくるかと思うので、参考にさせていただく。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
2	義務教育学校にするのであれば、小高ならではの義務教育学校にする必要があると思う。そこで最先端の先進的ＩＣＴ教育を前端的に打ち出して欲しい。そういったことを学ばせることによって、そこからまたこの町に戻ってきて、この義務教育学校に通わせたいという若い人たちが戻ってくるという環境にすることが可能ではないかなと思うが、教育委員会としてどのように考えているのか。	小高ならではの義務教育学校というものを指すというところはお意見のとおりだと思っており、小高の特色を生かした、小高に来てみたいと思われるような義務教育学校を目指したいと考えている。先進的なＩＣＴ教育をするというのも貴重なご意見と思っており、ＩＣＴ教育を行い、どのようなことを子どもたちがやっていきたいのか、それを使って自分の目指す目標を叶えていきたいのかという面もあるかと思う。今後、具体的にどういった学校を目指すのか、どんな子どもたちを育てていきたいのかを検討していければと思う。

(6) 部活動、施設の跡地利用について

① 質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	現在の小高中学校の施設をどうするのか、部活動のこともだが、校庭や体育館をどのように使っていくのか。	部活動については、今子どもたちが少なくなってきたことや、やりたいことが多様化しているという状況がある。学校単位で部活動をやっているものや、何校か合同でやっているもの、または地域のクラブとして活動をしているものもある。部活動に支障のないように、今の小高中学校のグラウンドや体育館を使うことも検討し、地域展開の状況も踏まえながら、一緒に協議を進めていきたいと考えている。 施設の利活用については、今後どういったものが必要なのか、どういった使い方が必要なのかというところを本日いただいたご意見等も踏まえ、協議を進めたい。

(7) 現在の課題の対応について

① 質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	今回こういう形で9年制になることによって、これまでの課題などが解消するのか。それとも9年制にはなるものの、結局、部活動など教育環境を求めて区外に通学をされていた方たちの不便は残るのか。これまで区域外就学がどのような要因で起きていて、それが今回、どういう問題は解消するが、こういう問題は残ると把握していれば、我々の意見を聞く前に説明していただきたい。	区域外就学については条件があり、その条件に合わない場合には認められないというのが原則となっていることから、各家庭の事情によるものであり、小高に通わせたくないからという部分ではないと思っている。ただ、部活動等の点で心配な部分があり、別な区域外就学の理由を選択されて市内の違う学校に行かれている方もいるかとも思う。そうしたものについては個別の状況のため把握できない。

(8) 国際バカロレア教育との関係について

① 質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	国際バカロレア教育については、原町第三小学校、原町第一中学校を軸に始めて行くと思うが、そもそも9年制に移行するという話と、市内でバカロレアに取り組んでいくという話がどのようにリンクして、どんな課題が起きそうなのか教えてほしい。	バカロレアについては、まず原町第三小学校でカリキュラムを実施する予定である。こちらの内容については、研究開発校というような位置づけになっており、原町第三小学校で取り組んだカリキュラム等について、市内全体の学校に広げるように進めていくことになる。小高は関係ないということではなく、今後、市内全体に探究学習等を波及させていくという考えを持っており、引き続き一緒に取り組んでいく形になる。

(9) 教育の継続性について

① 質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	9年制になることによって、幼児教育や小学校の中で一生懸命取り組んできたものが、きちんと継続いただけるのかどうかあらかじめ説明がないことにすごく不安を感じているが、どのように対応・検討されているのか。	現在、おだか認定こども園ではフォニックス学習やえいご発音遊びということで英語教育を行っている。そちらについては、そのまま小学校・中学校と系統立てて取り組んでいただいていると考えている。今後、義務教育学校開校ということとなれば、今後の協議の中で、どんな力を、どの発達段階に合わせてつけさせていくのかということも検討していきたい。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
2	小高区における教育の特色で、小学校ではフォニックス学習、中学校では東京グローバルゲートウェイ（TGG）の英語研修とあったが、中学校では今年度は実施していない。小学校でフォニックス学習をせっかく学んで来たとしても、中学校ではそういった英語教育に関して、小高区における教育の特色になっていないのではないかと思う。今後、義務教育学校になる際に、英語やICTの学習など、小高の義務教育学校の中でしか学べないような義務教育学校を作り上げてほしい。	これまでは修学旅行の行程の中に組み入れや、別に実施していた経過がある。ただ、今年度については日程等の部分を考慮した結果、TGGに行かないということになったと聞いている。認定こども園から中学校までという繋がりの中で、英語等も行っている現状もあるので、今ほどのようなご意見の通り、小高ならではの教育についても大切にしながら、こういった9年間の学びを充実させていくのかというところを検討していきたい。

(10) 義務教育学校に関する情報提供について

①質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	平成28年度から義務教育学校を取り組まれてきている学校から、9年通ってどうだったのかということもぜひ情報提供いただきたい。	実際の卒業生の声などということになるかと思うが、なかなかそういった声を拾い上げることができていないような状況である。先進自治体等にもいろいろとお伺いする場面があるので、その際に機会があればお伺いし、情報共有をさせていただければと思う。

(11) 開催通知、会議の進め方、情報開示について

①質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	今日のお知らせが、子どもたちの教育環境など大切なことなのに、2週間前に来たこともあり、なかなかリアルタイムでの参加が難しかったというのがある。また、多くの時間を資料の読み上げに使われてしまい、もっと質疑応答の時間があってもいいと思う。また、今日のことを受けて、さらに情報開示はして欲しいと思う。	お知らせが遅くなったことについては大変申し訳なく思っている。次回以降、このようなお知らせをする際は、余裕をもってお知らせするよう取り組んでいきたい。 また、内容についても、今後見直しを図りたいと思う。協議の部分等については、今後も皆様に経過を説明できるような情報発信に努めていきたいと思っており、理解いただけるような取り組みを進めていきたいと考えている。

(12) ギャップについて

①質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	小学校から中学校のギャップを何とかしないといけないというのはよくわかるが、小高区で子育てをする親としての一番の心配は小学校と中学校の間ではなく、中学校から高校や、そこから大学に行く時にもっと大きいギャップを経験しなければいけないことであり、きちんと外に出ていけるように育てていただけるかがすごく心配なので、そういう観点からの検討や課題を整理いただけたらと思う。	中学校から高校、また大学に行く際のギャップの方が大きいというようなところは、ご意見のとおりだと思っている。教育委員会としては小学校と中学校の9年間の部分について関わっていくので、そのこの学びについてはしっかりと対応させていただきたいと思っている。その上で、その先を見通せるよう、子どもたちの力をつけていきたいと思っており、その先の自分の人生設定についてもしっかりと考えられるようにキャリア教育にも取り組んでいきたいと考えている。
2	東京都の私立で学校名が幼稚園から大学まで同じというのが昔からあるので、そのこのギャップというのはどうなのかなと思う。周りの友達もみんな一緒というのもあると思うが、ギャップについてどう捉えればいいのかは難しいと思う。	確かに、幼稚園から大学まで一緒にというようなところもあるが、そういった所でも、発達段階に合わせて小さなステップというものを作っているのではないかなと思う。また、大学まで繋がるような所だと、途中、試験などで子どもたちが入れ替わるなどの部分もあり、ギャップというものを感ずる場面もあると思う。 先生たちが小さいうちから見ていく中で、子どもたちの特性をしっかりと把握されているところもある。つまりかかないようにすることはばかりがいいことではないとは思っており、成長に合わせたステップも準備する必要もあると思うので、発達段階に応じたステップを設けて、子どもたちが、より成長できるような形で進めていきたい。

【決定事項・今後の対応など】

質疑応答の内容については、10月28日開催の第2回小高区義務教育設立検討準備協議会に報告し、あり方の方向性を検討するための参考とする。